２７年度の課題と対応について　　県中地方振興局

資料２－２

目指すべき姿（目標・成果）

○都路地区の地域コミュニティ再生と営農、商工業の再開、避難住民の帰還
○「地域の宝」を活かした地域間交流の拡大による過疎・中山間地域の振興【目標：地域団体等の取組による交流人口／129,870人（H22×1.50）　※H26実績：117,710人】
○市町村・民間と連携した広域観光の推進と情報発信の強化による地域の魅力向上【目標：観光客入込数／7,996千人（H22×1.00）　※H26実績（1～9月）：5,320千人】
○地域資源を活用した地域産業の再生と雇用の創出による生活基盤の充実【目標：6次化新商品／28商品以上（H23～H26平均新商品数）　※H26実績：26商品】

現　状

都路地区の住民帰還と地域再生に向けた取組の継続が求められている。

地域活力向上や地域産業活性化に向けた取組を推進していく必要がある。

広域観光や農産物の風評払拭に向けた取組・情報発信を強化する必要がある。

地域資源を生かした集落活性化と都市部との交流拡大が期待されている。

課　題

○農林水産物の安全性ＰＲと魅力発信、販売力の向上
○再エネ、医療関連産業等の集積による地域産業の復興
○市町村等と連携した広域観光の推進
○地域再生を担う人材の育成と交流人口の拡大
○都路地区での住民帰還に向けた環境づくり

平成２７年度事業の計画

① 地域経営分

都路６次産業化プロジェクト事業（事業費：30,000千円）

【目的】
平成２６年４月１日に避難指示区域が解除され、地域の再生と避難住民の帰還が喫緊の課題である田村市都路地区において、地域で生産している農産物を活用した６次化商品を開発、販売につなげ、地域産業再生と雇用の創出、人材の育成を行うとともに、地域内外との交流促進により原子力災害で活気を失った地域に賑わいを創出し、都路地区の再生と住民の帰還に向けた環境づくりに取り組む。
また、地域を原材料の供給源とすることで、地元農家の営農支援とともに、地域全体で経済が循環するような事業展開を目指していく。

【事業概要】
① ６次化商品の加工、販売を行う拠点を仮設で整備するとともに、飲食スペースを併置し、帰還者と避難者、地域外の方々が立ち寄り交流を深める空間とし、直売所機能や公益的機能を付加する。
② 地元高校生、専門学校等の協力により新たな６次化商品を開発する。
③ ふくしまデスティネーションキャンペーン関連イベントにおけるＰＲや、６次化拠点の完成に合わせたＰＲイベント等を実施し、都路の元気を県内外に広く発信する。

船引高校生等による
スイーツ開発

【ねらい】
県内で最初に避難指示が解除された田村市都路町において本事業を実施することにより、新たな雇用の創出と人材の育成等を支援し、旧避難区域の再生と原発避難者の帰還に向けたモデルケースとする。

【効果】
① 避難住民の帰還に向けた働く場と収入の確保　② 地域資源の活用と販路拡大
③ 都路の再生を担う人材の育成　④ 帰還者と避難者、地域外の住民との交流促進
⑤ 都路ブランドの回復

② 過疎・中山間連携事業

ふくしまど真ん中！元気プロジェクト

<広域観光の推進>
・ふくしまＤＣを契機とした「花（ふくしまハナミゴロ）」、「食（おもてなし女子駅弁）」、「温泉（温泉のフチ子）」による県中地域の魅力発信。

<SNSを活用した情報発信の強化>
・FacebookやYoutubeに加え、若者を中心に利用が急増しているInstagramを活用し、県中地域の魅力を積極的に発信する。

食べる観光パンフレット
「おもてなし女子駅弁」

③ 一般枠（民間等）

きっと素敵な出逢いが待っている!! 逢瀬６次化プロジェクト事業

<地域活力の向上と６次化の推進>
・安積アルプス縦走トレッキングや出逢いのまちキャベツ餅音楽祭等の開催による観光・農業振興と地域の活性化。

出逢いは逢瀬(ここ)から
（郡山市逢瀬）

④ 市町村枠

観光誘客の推進(ウルトラマン関連事業)

<地域資源を活用した観光誘客>
・須賀川市出身の円谷英二監督が生んだウルトラマンを活用し、「特撮文化拠点都市」としてイメージアップを図り、風評被害を払拭。

ウルトラマンモニュメント
（須賀川市）